

## 生物多様性龍高プラン

塩江真彩・熊橋桃子・寺田夏子・増田絢音・廣田乃愛・國武明日香・原拓宏・進藤聡汰  
兵庫県立龍野高等学校 自然科学部生物班

### はじめに

シカの大量増殖、アメリカザリガニの分布の拡大、里山・ため池の管理放棄などが原因で生物多様性は急激に喪失している。播磨地方も例外ではない。

身近な自然環境や生きものたちを守ることができるのは、近くに住む人々の行動が必要不可欠である。持続可能な保全活動には、児童・生徒が地域の自然や生きものに関心をもつことや、実際に保全活動に参加することが必要である。龍野高校では、生徒による生物多様性保全活動のモデル事業となるよう「生物多様性龍高プラン」に取り組んでいる。

### 方法

主に以下の4つの活動に取り組んでいる。

#### ① しらべる活動（調査・研究活動など）

絶滅危惧種ヒシモドキの自生地の調査（アメリカザリガニによる食害対策の研究）、簡易防獣柵による食害軽減効果の検証、サギソウの環境教育への活用をめざしたバイオ実験技術の開発

#### ② まもる活動（自生地の保全活動・生息域外活動など）

サギソウ生育地での除草作業、公園内のヒシモドキの生息域外保全の管理（ヒシの除去）、フジバカマの植栽実験、自生地におけるササユリ、ギンラン、キンランの簡易防獣柵を用いた保全

#### ③ つたえる活動（地域住民や市民・県民への啓発活動）

植物園での研究成果の報告（サギソウ展・食虫植物展） 科学イベント（青少年のための科学の祭典姫路大会・桜山公園まつり科学の屋台村）で生物多様性に関する展示発表、太子町総合公園体験学習施設での展示、各種科学コンテストや学会での成果の発表  
環境教育・ESD 教育実践動画 100 選（環境省）

#### ④ つながる活動（自生地のある自治会や役所担当課、他の環境保全団体や専門家との連携）

絶滅危惧種のある土地の管理者との連携 サギソウ：たつの市神岡町の自治会。ヒシモドキ：たつの市揖西町の自治会。ササユリなど：兵庫県立大理学部

その他、たつの市、太子町、県立人と自然の博物館、姫路市立手柄山温室植物園、姫路科学館、他校自然科学部、地域の環境保全団体

### 今後の展望

すべての、小・中・高校で地域の絶滅危惧種を題材に環境教育が実施できれば、野生絶滅した場合でも校内の生息域外保全によって、絶滅を防止できる。

そのためには、行政機関、地域住民や企業からの継続的な支援や研究者や自然愛好家専門家からの指導助言などの協力が、持続可能な地域の生物多様性保全活動に必要な不可欠である。



図1 しらべる活動

簡易防獣柵の効果の検証



図2 まもる活動

ヒシモドキの生息域外保全



図3 つたえる活動

科学イベントに出展



図4 つながる活動

研究者からの指導助言